

第6期介護予防リーダー養成研修が西部でスタート

～新たに24名の「介護予防リーダー」が誕生～

平成19年度から、地域で介護予防に関する普及啓発を推進する者「介護予防リーダー」を養成するためスタートしました「介護予防リーダー養成研修」は、本年度で第6期目を迎えました。

すでに650名を超える介護予防リーダーを輩出している本研修は、平成26年度までに950名の介護予防リーダーを養成するという、新たな目標を掲げて取り組むこととなりました（とくしま“福祉のきずな”サポートプラン＜徳島県地域福祉支援計画＞に明記）。



本年度は10月17日を皮切りに、西部ブロック（吉野川市，阿波市，美馬市，三好郡，美馬郡）からスタート。介護予防に関する制度や施策をはじめ、介護予防につながる運動や栄養，口腔といった各分野の講義を4日間にわたり受講しました。

「阿波おどり体操」考案者として知られている徳島大学の田中俊夫教授をはじめ、県内有数の講師陣による講座内容はいずれも好評で、受講生からは「大変ためになった」との声がたくさん聞かれました。

西部ブロックでは最終的に24名が所定の課程を修了，徳島県老連会長からの「修了証」と徳島県知事からの介護予防リーダー「認定証」を受け取りました。今後それぞれの地域において、介護予防リーダーの先輩たちとともに、「元気高齢者」のお手本として、活躍されることが期待されます。

「介護予防リーダー養成研修」(第6期)は、このあと中央ブロック（10月25日～あわぎんホール）及び南部ブロック（11月15日～阿南市民会館）でも行われることになっています。

